

なにわ区 立葉地域

のどかな戦前とB29が飛来する戦中

区長 北田さんは1934(昭和9)年の生まれでいらっしゃいますね。戦前、戦中のことを教えてください。

北田さん 小さい頃は芦原警察署の近くに川があって、めだかやフナ、鯉がたくさんいて、よく遊びに行きました。小学校は難波芦原尋常小学校に通いました。途中で芦原国民学校という名前に変わりました。学校は今の東洋紙業株式会社のある場所にありました。

松岡さん 東洋紙業には今も、小学校だった頃の階段が残っています。

北田さん 戦争で都市部への空襲が始まり、小学4年生の時、和歌山の知り合いのところ疎開しました。和歌山の疎開先では、B29戦闘機が上空を大阪の方に向かって飛んでいくのがよく見えました。中学2年生の時に大阪に戻ってきましたが、その頃にはまともないぶ片付いていました。

区長 浪速区では1947(昭和22)年に初めて中学校ができました。浪速第一中学校(現在の難波中学校)といい、創立当初は浪速区全域を校区としていました。開校当初は大国小学校と今宮中学校(現在の大阪府立今宮高等学校)の2か所を仮校舎にしていたと聞いています。

北田さん 私たちは今宮中学校の方に通いました。その後、今のUR都市機構桜川市街地住宅(以下UR桜川住宅)のある場所に校舎ができました。それまでは間借り学校ばかりでしたが、ようやく格好がつかえました。



【参加者】(左から)山本 昌代さん、幡多区長、森 良夫さん、山本 悦司さん、北田 芳信さん、松岡 義博さん

馬力馬や花電車が走った戦後

区長 森さんは終戦の年、1945(昭和20)年の生まれですね。

森さん 小学1年生の頃、近くに焼け残った兵舎があって、管理されずにお化け屋敷ようになっていました。その中にヘルメットや木の銃が残っていたので、それをかぶってよく戦争ごっこをして遊びました。小学校の頃はこの辺りでも雪が降って、積もることがありました。そうしたら、竹を横に半分切ったものを2つ、断面の方を上にして並べて、その上にみかん箱を乗せて「そり」を作ります。大浪橋のつべんのところから、その「そり」で滑って降りて遊んでいました。

山本(悦)さん 大浪橋は太鼓橋のような形をしていて、結構、急こう配ですからね。

やるんです。そうすると橋の上にアイスクリーム屋がいて、馬力馬のおっちゃんがおごってくれるんです。次に台車が坂を下る時は、坂の上側から台車を引っ張って、勢いをつき過ぎないようにするんです。アイスクリームを目当てに手伝いに行っていました。

区長 昔の資料にも、浪速区には運送業が多く、馬もたくさん飼育されていたとあります。立葉地域には、大きな「新なにわ筋」が南北に走っていますね。

山本(悦)さん 新なにわ筋の高速道路の真下には昔、家が並んでいました。それが全部立ち退いて、大きな広い道路になりました。小学校へ上がる頃まではそこは土の道で、だだっ広い良い遊び場でした。

区長 新なにわ筋の整備は比較的新しいですが、その東側にあるあみだ池筋は、以前は代表的な幹線道路で、市電が走っていたそうですね。

松岡さん 昔は、花で飾り付けられた花電車があみだ池筋を走っていたことが思い出されます。三宝車庫前(堺市)まで行って乗り、桜川で下ろしてもらいました。

山本(悦)さん 花電車は本当にきれいでしたね。私たちは、花電車が通るのを見に行く方が多かったです。市電がなくなる頃まで走っていたと思います。

区長 山本さんは1985(昭和60)年に嫁いでこれたと伺いました。その頃と比べて、まちは大きく変わりましたか。

山本(昌)さん それほど変わってはませんが、市場の様子は変わりましたね。今UR桜川住宅の1階にあるスーパーは、昔は市場になっていて、買い物かごを持って子どもを連れて買い物に行きました。子どもたちは市場の中を走り回っていましたが、市場の商売人さんたちが子どもの相手をして遊ばせてくれたので、安心して買い物できました。

山本(悦)さん 以前、桜川には「桜川公設市場」のほかに「新桜川商店街」と「汐見橋中央市場」がありました。私も子どもの頃は、公設市場の中で遊んでいました。夕方になったら、市場の事務所に大きなテレビがあったので、そこで相撲を観ていました。その3つが難波中学校の跡地にできたUR桜川住宅の1階に移転したんですが、まだまだその時は昔ながらの市場の雰囲気が残っていました。



花電車の絵葉書

汐見橋駅と桜川駅周辺の発展

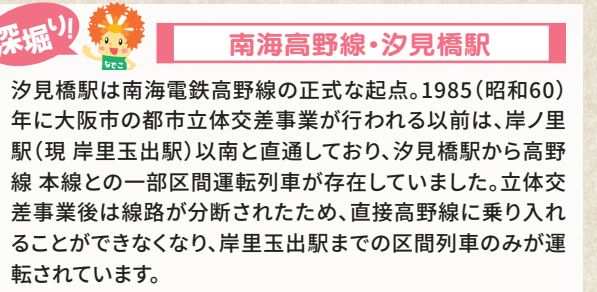
区長 ところで、立葉地域にある「汐見橋駅」は南海電鉄高野線の始発駅で、大変古い歴史があると聞いています。

山本(悦)さん 南海電車は今、細い線路になっていますけど、昔は大きな貨物線でした。

松岡さん 今は高野山まで行くのに岸里玉出駅で乗り

換えが必要ですが、以前は汐見橋駅から直通で行きました。小学生の時の林間学校は、ここから電車に乗って行きました。

山本(悦)さん 昔は立葉地域に難波八阪神社の御旅所※(おたびしょ)がありましたので、お祭りのときは神輿を引いていました。その頃は、汐見橋駅のところが途中の休憩所になっていました。



昭和50年ごろの汐見橋駅構内 現在の汐見橋駅

区長 他に、今では見られない光景はありましたか。

森さん 昔、西区に貯木場があって、よく馬で材木を運んでいました。馬の蹄(ひづめ)が道路のアスファルトに接触してパチパチ火花が出るのをよく見ていました。

区長 昔は馬が荷物を運んでいたんですね。

山本(悦)さん 昔はそれを馬力馬(ばりきうま)と言いました。サラブレッドの足を太くして、もうちょっと背を低くした感じの馬が荷物を運んでいました。

松岡さん 子どもの頃はよく、大浪橋のところ馬力馬の手伝いをしました。木材を乗せた台車が橋の坂を上がっていく時に、台車を後ろから押して馬を助けて

区長 山本(悦)さん、子どもの頃はよく、大浪橋のところ馬力馬の手伝いをしました。木材を乗せた台車が橋の坂を上がっていく時に、台車を後ろから押して馬を助けて

区長 他に、今では見られない光景はありましたか。

森さん 昔、西区に貯木場があって、よく馬で材木を運んでいました。馬の蹄(ひづめ)が道路のアスファルトに接触してパチパチ火花が出るのをよく見ていました。

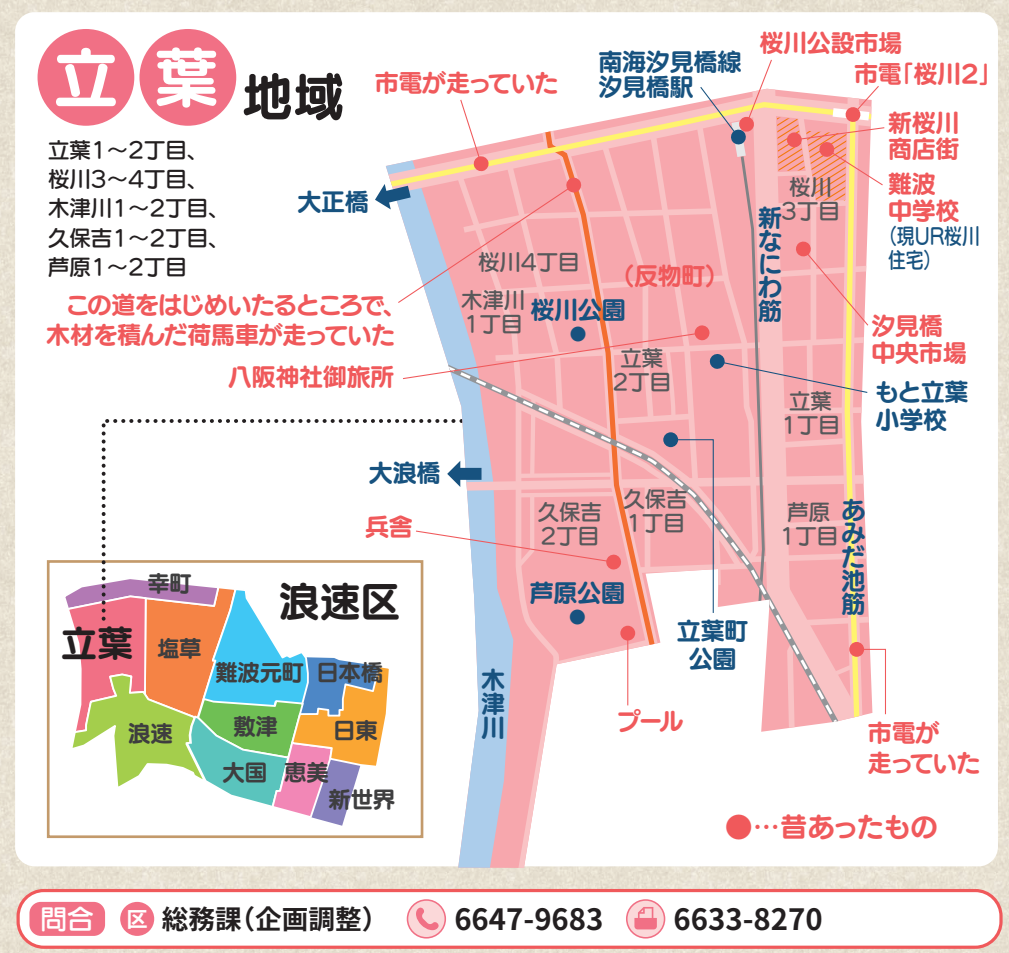
区長 昔は馬が荷物を運んでいたんですね。

山本(悦)さん 昔はそれを馬力馬(ばりきうま)と言いました。サラブレッドの足を太くして、もうちょっと背を低くした感じの馬が荷物を運んでいました。

松岡さん 子どもの頃はよく、大浪橋のところ馬力馬の手伝いをしました。木材を乗せた台車が橋の坂を上がっていく時に、台車を後ろから押して馬を助けて

昭和42年まで長く使用されていたようです。

山本(悦)さん 私が住んでいる場所は昔、反物町という町名でした。確かに呉服屋が多くて、子どもの頃は不思議に思っていました。昔の地図に、呉服商から始まったあの「大丸」の名前のついた倉庫が何かが載っていたと思います。そこから小売店が増えていったの



問合せ 区 総務課(企画調整) ☎ 6647-9683 ☎ 6633-8270

浪速区制100周年記念事業

～浪速区の生い立ちを振り返ります～ vol.1

遠いむかし、上町台地のすぐ西まで海がきており、難波江(なにわえ)、難波湯(なにわがた)とよばれていましたが、大和川と淀川が運んできた土砂が浅瀬、洲をつくり、後に浪速八十島(多くの島の意)を形成しました。このように当区の大半は、かつては海あるいはアシの茂る地でした。

推古元年(593)10月、四天王寺が創建されるとき、諸国から海を渡って運ばれた木材は、当時海岸であったこの付近に集められ、地名「木津」のおこりになったといわれています。その木材を造営地に運ぶために掘られた堀が、いたち川となりました。

明治11年(1878)いたち川と難波新川の貫通工事に古代のくり船(丸木船)が発掘されました。わが国では、名古屋には、名古屋について2番目の出土です。くり船は、前後2本のくすのきで造られ、継ぎ目の部分は釘を使わず、巧みなしくみにしていました。現物は大阪城に保存されていましたが、空襲により焼失しました。

昭和4年、南海難波駅の工事の際、地下7メートルあたりから無数の貝とともに土器や炭化した流木や獣骨が発見されています。このときのボーリング調査によると、この遺物を含む層は天然の海底沈積によるものでした。石器時代、この付近は海中で、当時海底に棲息していた貝類が地層の形成とともに自然に沈積したのち、陸上に住んでいた人類が使った土器が沈みつき海底に沈んだものと考えられています。

問合せ 区 総務課(企画調整) ☎ 6647-9683 ☎ 6633-8270

立葉地域年表

- 1622(元和 8年) ● 中村勘助が木津川を浚渫※(しゅんせつ)改修
- 1888(明治21年) ● 西側簡易小学校(のちの立葉小学校)開校
- 1900(明治33年) ● 高野鉄道(現南海高野線)汐見橋-堺東間開通
- 1908(明治41年) ● 難波第6尋常小学校(桜川小学校)開校
- 1915(大正 4年) ● 市電西道頓堀・天王寺線(桜川2丁目-芦原橋-大國町一恵美須町-天王寺西門)開通、大正橋竣工、市電九条高津線(安治川渡2丁目-玉船橋-汐見橋-桜川2丁目-湊町駅前-千日前-上本町6丁目)開通
- 1921(大正10年) ● 難波芦原尋常小学校開校
- 1922(大正11年) ● 桜川公設市場開設
- 1925(大正14年) ● 南海高野線として汐見橋-高野下間がつながる
- 1927(昭和 2年) ● 阪堺電鉄芦原橋-三寶間開通(昭和19年に市電が買収)
- 1934(昭和 9年) ● 室戸台風襲来
- 1937(昭和12年) ● 大浪橋完成
- 1943(昭和18年) ● 久保吉町に芦原公園開園
- 1945(昭和20年) ● 爆撃により区域の約93%が消失、終戦
- 1946(昭和21年) ● 桜川国民学校、芦原国民学校が立葉国民学校に統一
- 1948(昭和23年) ● 浪速第一中学校(浪速西-難波中学校)もと桜川小学校に移転
- 1962(昭和37年) ● 難波中学校が現在地(塩草)に移転
- 1968(昭和43年) ● 福島-芦原橋-百済、芦原-出島間市電廃止
- 1969(昭和44年) ● 地下鉄千日前線(野田阪神-桜川)開通
- 1970(昭和45年) ● 地下鉄千日前線(桜川-谷町9丁目)開通、阪神高速道路(湊町-堺)開通
- 2009(平成21年) ● 阪神なんば線開通、桜川駅新設
- 2014(平成26年) ● 立葉小学校開校、塩草立葉小学校開校

※川などの水底の土砂を掘り取ること

なにわマニア話 vol.3 立葉地域

■船場の豪商たちの夢の跡・摂津紡績【立葉】

明治15年(1882)、藤田伝三郎、松本重太郎、渋沢栄一らが大阪紡績会社(現・東洋紡)を設立し、大正区三軒家で日本初の近代紡績工場を操業しました。明治19年(1886)の夜間操業開始には物珍しさに3日間、約5万人が訪れたといわれています。明治22年(1889)、その大阪紡績の東側、木津川を挟んだ対岸の西成郡難波村(現・浪速区久保吉2丁目)に設立されたのが摂津紡績です。初代社長は船場・道修町で唐紅花商「羽州屋」を営んでいた高田久右衛門(1812~1892)です。この羽州屋で働いて暖簾分けをされたのが伊藤萬助(イトマン創業者)で、伊藤萬助は摂津紡績取締役も務めました。摂津紡績は順調に利益を上げて大和紡績、平野紡績、郡山紡績などを合併していきませんが、大正7年(1918)、尼崎紡績(初代社長は「加島屋」の広岡信五郎。広岡浅子の夫)と合併して大日本紡績(現・ユニチカ)となりました。工場も移転することとなり、その跡地は芦原公園(昭和18・1943年開園)となっています。



摂津紡績・木津川工場(出典:『ニチポー75年史』)

むっさとし 陸奥賢さん 案内人
観光家/コモンズ・デザイナー/社会実務者